

COMMUNITY

Company Name

<https://sosaproject.net/>

環境NPO法人 SOSA Project



特報 わたしたちは、
未来(ミライ)の農業を作り始めます

都会と地方の交流を促進し、新しい生き方をサポート ソーラーシェアリングを受け皿にした移住支援の窓口にも ●

“ソーラーシェアリングの郷”に、都会から人を呼び込むNPOがあります。
農業体験を軸に、各種ワークショップを展開する「SOSA Project」です。
創設者で理事の高坂勝氏に、取り組みの意義を伺いました。

「My田んぼ」で自然に向き合う新体験

■ SOSA Projectとはどのようなものですか？

SOSA Project(匠磋プロジェクト)は、匠磋市の谷津田を中心に、米作り、里山整備、田舎暮らしのスキル伝達、移住斡旋などを行っている環境NPO法人です。その中心にある取り組みが、街で暮す方々の自給へのニーズに応える「My田んぼ」です。1組0.5畝(約50㎡)の田んぼを使って、田植え・草刈り・収穫などを楽しみながら経験してもらっています。

2021年度は、約100組の方々が、この地に通って米作りや大豆作りを体験されました。分からないことや困ったことは、地元の方々にもご協力を仰ぎながら、SOSA Projectのメンバーがサポートさせていただきます。農作業を通じた自然との対話のなかで、ご自身の新しい可能性を感じ取っていただければと思っています。

生活の糧をソーラーシェアリングから

■ ソーラーシェアリングとの関係は？

私たちは、味噌や醤油づくり、草木染め、服作り、薪割り、小さな家のセルフビルド、古民家再生など、個々人の暮らしの自給力を高めるためのプログラムも多数展開しています。自然エネルギー



里山から切り出した竹を組んで、稲を逆さに掛けて太陽と風にあてるオダ掛けの風景。稲刈り後の「My田んぼ」には、機械化に伴い失われつつある農村の風情が息づいている。

ギーによる電気の自給も重要なテーマの一つであり、折に触れてソーラーシェアリングと絡めたワークショップを開催しています。

また、匠磋への移住を希望する人に向けて職の紹介などもしているのですが、ソーラーシェアリングは様々な仕事を生んでくれるので助かっています。発電設備の設置や草刈り、事務の仕事など、単発のものから長期のものまで多種多様です。ソーラーシェアリングのお陰もあり、これまでに50人以上の人が、SOSA Projectを通して移住してきています。

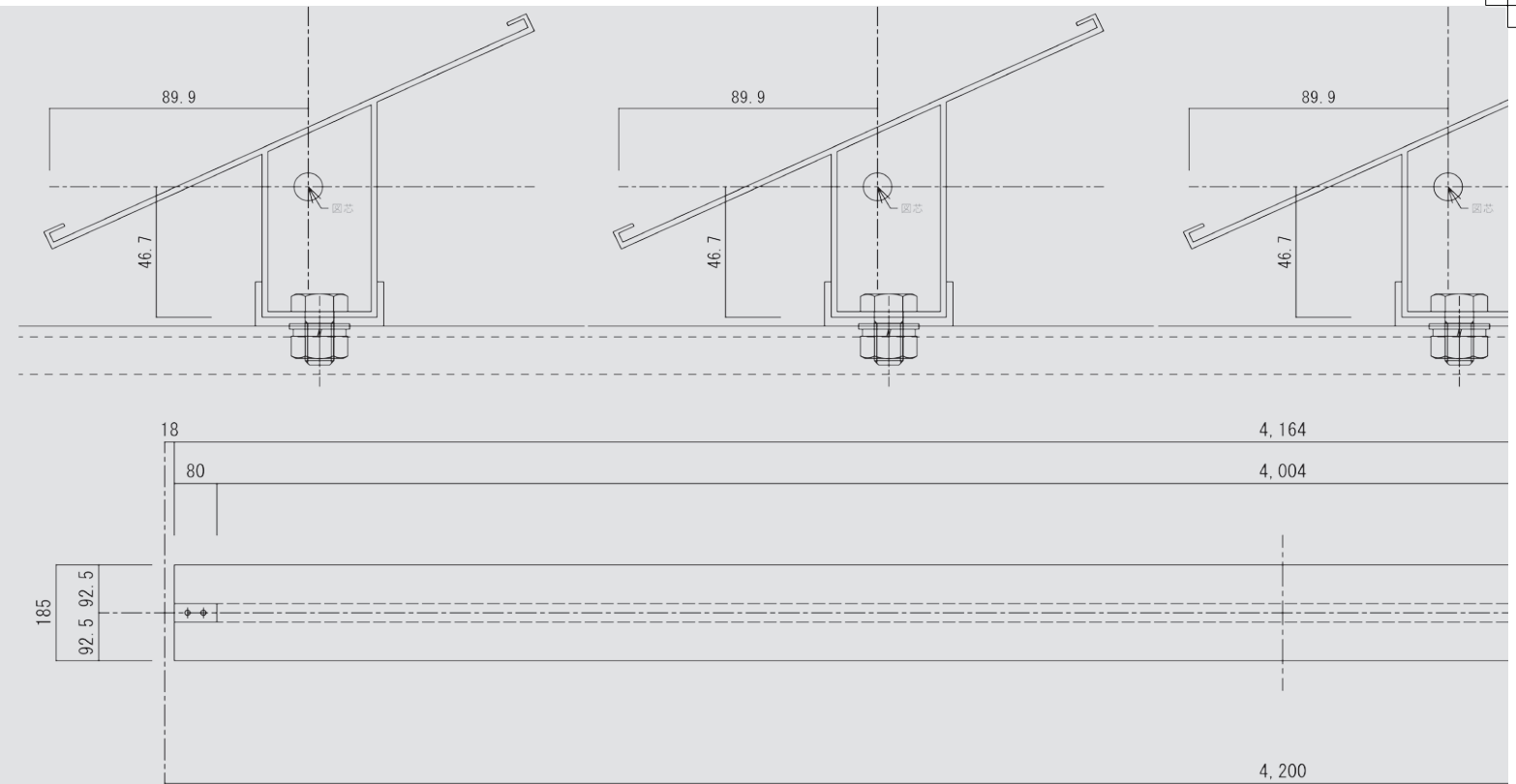
企業はリストラではなく自立支援を

■ 今後の展開についてお聞かせください。

SOSA Projectの活動によって自給力を高め、自信を深めた参加者の多くが、いまでは日本各地に移り住んで、様々なことにチャレンジしています。これからも個々人の「自給」「自信」「自立」につながるような、生きる知恵を発見できる場所でありたいと願っています。

これまでは個人を対象にアプローチしてきましたが、これからは企業にも働きかけて、企業で鬱になっている方々を元気にしていけるようなプログラムも展開したいと考えています。農作業など自然と触れ合う体験を、社員の鬱対策や自立対策に役立ててほしいのです。ここでの経験を経て、その会社で重要な役割を担っていく人もいでしょうし、あるいは会社を辞める人も出てくるでしょう。新たに起業する人も、地方に行って自由な生き方を追求する人もいでしょう。いずれにしても企業には、リストラではなく、社員の自立を後押しすることに目を向けていただきたい。SOSA Projectは、そうした企業が増えるよう、企業にもメリットを感じていただけるような新たなスキームを構築してまいります。

とはいえ私たちは、SOSA Projectを大きくしていこうとは思っていません。ニーズが減れば縮小していけばいいし、役割が終われば解散してしまってもいい。ここでの取り組みが種となって、全国で花開いてくれたら最高ですね。



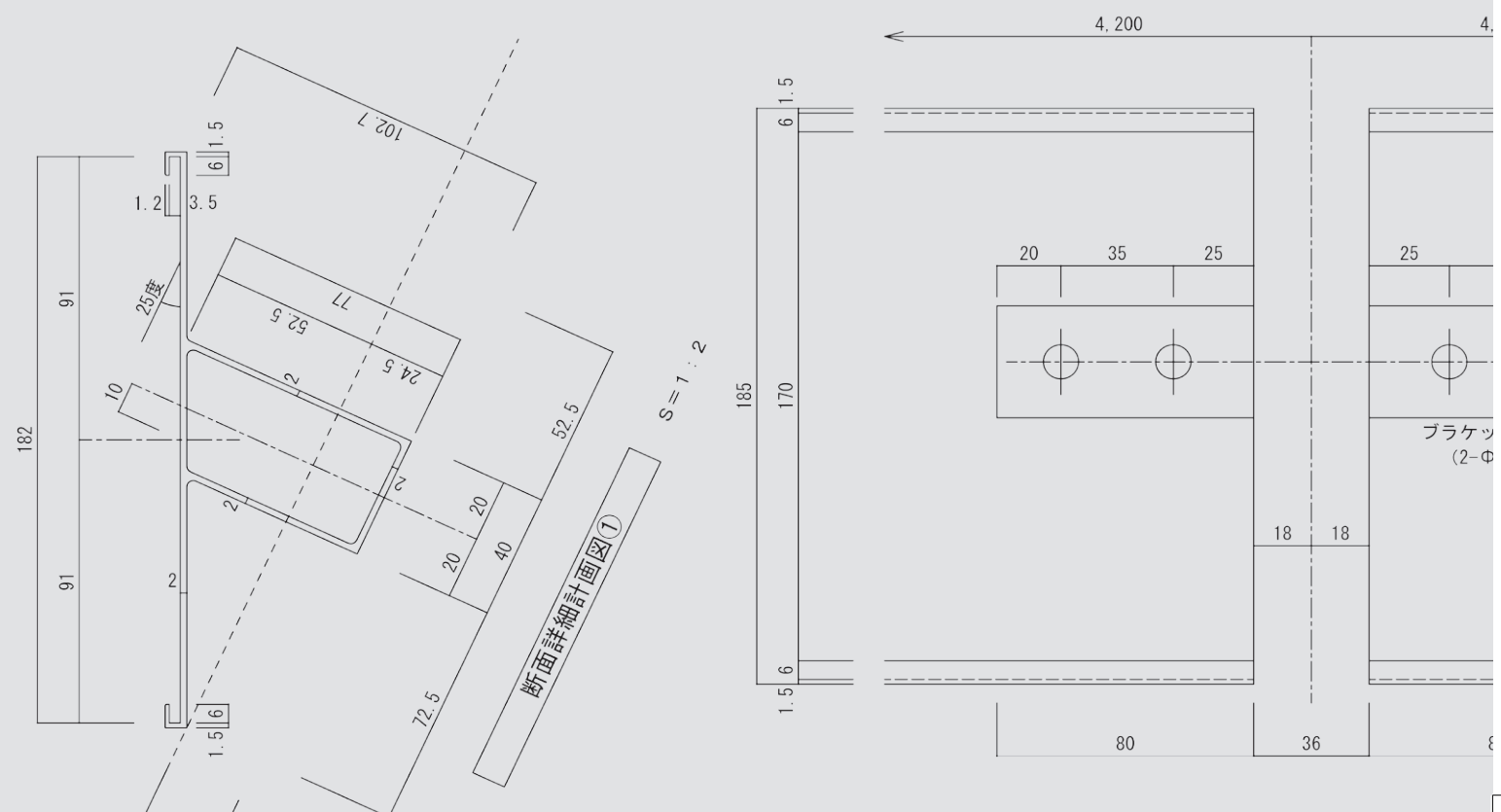
Share the GIFT from the SUN !!

MINI-ENE

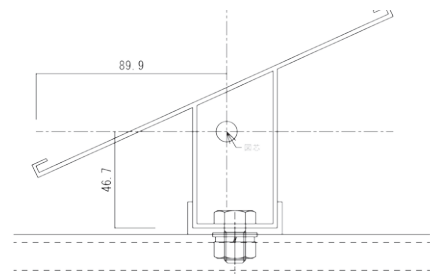
みんエネ

produced by 市民エネルギーちば株式会社

特報 わたしたちは、未来(ミライ)の農業を作り始めます



TERRA



次世代ソーラーシェアリングの実現に向けて

一列セルシステム



到着した試作品を使って、早速架台（現状では“まだ”既存のもの）への設置作業（仮組み）を行いました（写真上、下左）。手作りの段ボール製モックアップ（写真下右）から開発をスタートした新システム「TERRA」がこうして具現化。次は実際の「商品」としてデビューする日も近い？

TERRAの開発順調！

私たちが開発を続けてきた、1列セルのソーラーパネルを使用した次世代ソーラーシェアリングシステム。ついにその試作品が到着、仮組みまで漕ぎ着けることができました。

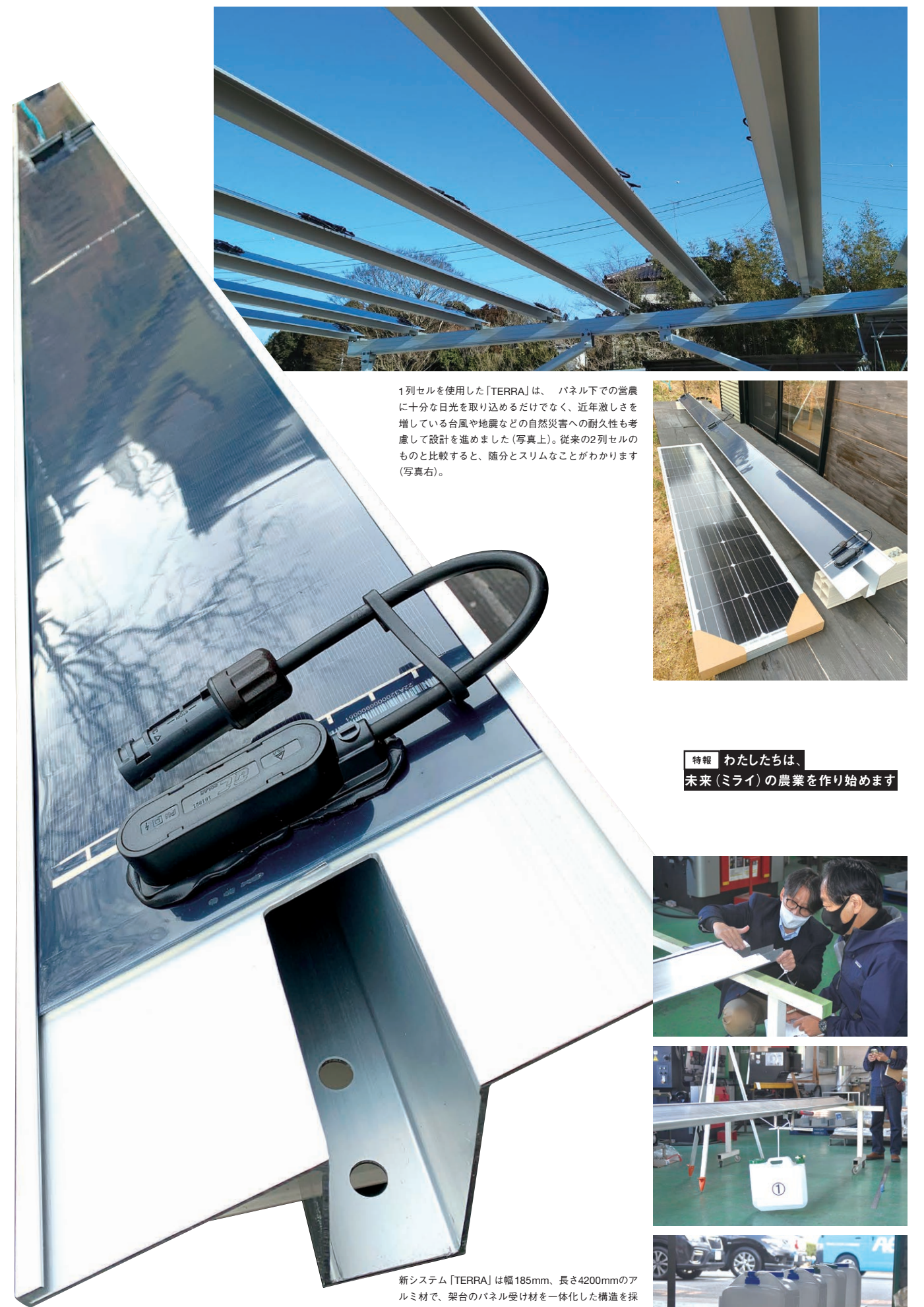
試作品が到着、仮組みまで漕ぎ着けました！

ソーラーシェアリングを、単なる太陽光発電のバリエーションとしてではなく、自然環境や農業、そして地域コミュニティをも再生するツールとして日本国内はもとより、世界に向けて発信・拡散していくことを目指す私たちは、その最初のハードルとなる導入費用（イニシャルコスト）の軽減に向けて、新たなシステム「TERRA」の開発に取り組んできました。

具体的には、現在おおよそDC1kW（AC50kW未満時）あたり13万円代（2021年6月時点/税抜）かかっているものを、10万円を切るシステムとすること（トータルで30%以上のコスト削減！）。

そのために、パネルと架台の受け材を一体化、一列セルの太陽光電池を使用したオリジナル構成とすることで、部材や重量カットだけでなく、施工や輸送にかかるコストも大幅に軽減できるシステムです。安全かつサステナブルな設備とするためには、コストだけでなく十分な強度も備えていなければならないため、パートナー企業と共に試行錯誤を重ね、2022年2月下旬に、ようやくバージョン・ゼロともいべき試作品が手元に届き、仮ではありますが架台に設置、今後はさらなる実証試験へとフェーズを進めていきます。

また、新システムに相応しい革新的な要素を盛り込んだ架台についても開発中……どうぞご期待ください！



1列セルを使用した「TERRA」は、パネル下での営農に十分な日光を取り込めるだけでなく、近年激しさを増している台風や地震などの自然災害への耐久性も考慮して設計を進めました（写真上）。従来の2列セルのものと比較すると、随分とスリムなことがわかります（写真右）。



特報 わたしたちは、未来（ミライ）の農業を作り始めます



新システム「TERRA」は幅185mm、長さ4200mmのアルミ材で、架台のパネル受け材を一体化した構造を採用。試作とテストを重ねてきました。今回到着した試作品もまだまだバージョン・ゼロともいべき仕様ではありますが、今後実証試験とともにさらなる開発を進めて、次世代ソーラーシェアリングとしてふさわしいシステムへと熟成を重ねていく予定です。すでに国内特許は取得済み（特許第6960196号）で、アメリカ、中国など海外特許も申請中です。

Solar Sharing for Farmers

次世代農家のためのプラットフォーム

Solar Sharing for Farmers(以下「SSF」)は、日本の農業問題とエネルギー問題を解決する「ソーラーシェアリング」の普及を目的としたウェブサイトです。農家や発電事業者、SDGsに取り組む企業に向けて、ソーラーシェアリングに関する情報を発信していきます。

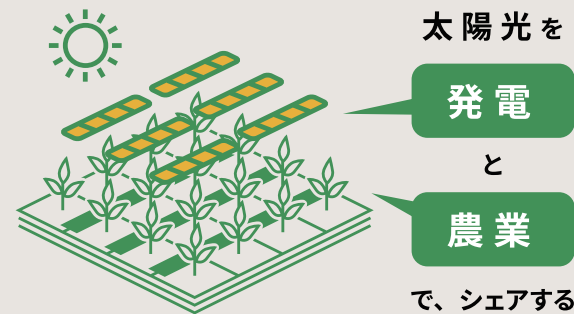


これからの農家は、
作物を育てながら発電もする。

独自サービスと実例紹介のレポートで
ソーラーシェアリングの導入・運営を
SSFがサポートします。

<https://solar-sharing.farm/>

ソーラーシェアリングとは？



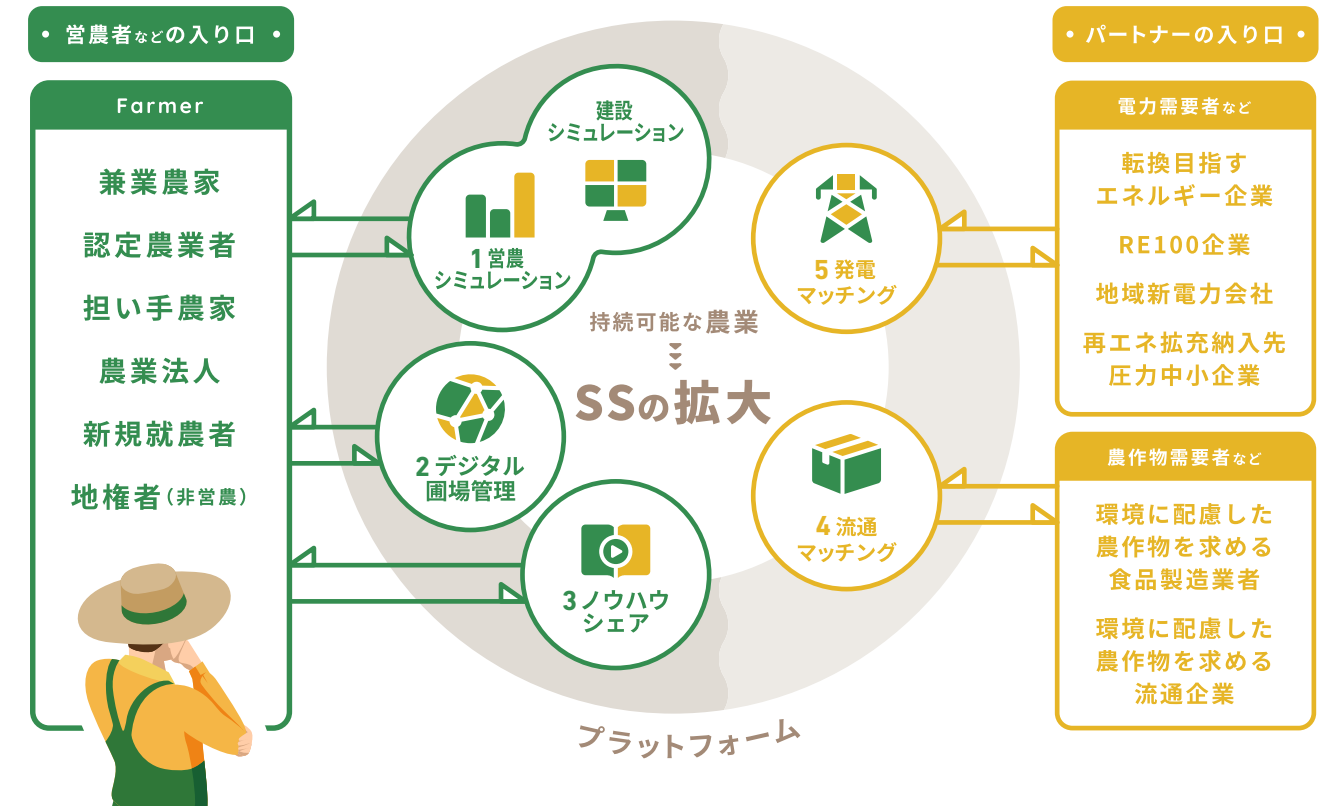
営農重視のソーラーシェアリングでは、細身のパネルを使用し、低い遮光率で発電を行います。実は強すぎる直射光は、植物にとって有害無益。適切な明るさの光以外は光合成に使えないため、不要のものになってしまうのです。

そこで農地や牧場などに太陽光パネルを設置し、太陽光を「農業」と「発電」でシェア(分け合う)しようと考案されたのが、ソーラーシェアリング。生物と共存できる発電方式です。



SSFの5つのサービス

SSFではソーラーシェアリングの建設を検討、運用する上で活用できる5つのサービスを提供します。



1 営農シミュレーション

農地の真価が数字でわかる。もしも、ソーラーシェアリングを導入したら？



様々な条件で未来シナリオを確認



収益予想グラフは、農地情報、SS(ソーラーシェアリング)設置設定、資金設定を変更することでリアルタイムに試算結果が反映されます。

ソーラーシェアリングの建設シミュレーション



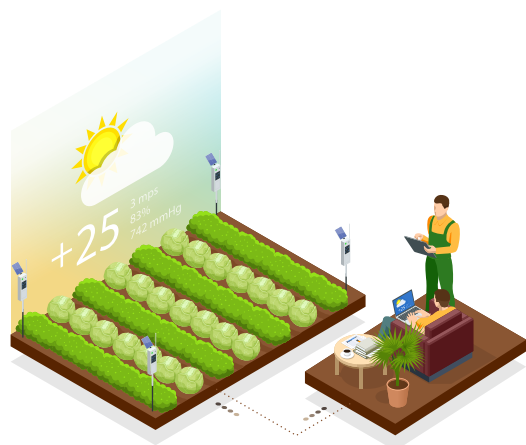
農地面積や形状から、実際に何枚のパネルが農地に設置できるのかを詳細にシミュレーションすることも出来ます。

登録された圃場データを用いて、ソーラーシェアリングを設置した場合の収益予想をすることができるサービスです。圃場面積、栽培作物、収穫量などを入力することで、その圃場がソーラーシェアリングに適しているかどうか分かります。

2

デジタル圃場管理

離れた農地の状況をリアルタイムでキャッチ。データの蓄積でより確かな農業を。



ソーラーシェアリングが設置された圃場に、様々な気象センサーを取り付けることにより、遠隔地から圃場の様子をモニタリングすることを可能にするサービスです。

気象センサー



温度、湿度、雨量、風向、風速、紫外線量などの気象データを取得することが出来ます。

水位センサー



水位、水温データを取得することが出来ます。

4

流通マッチング

育てた作物の付加価値を高める。あなたのアイデアをみんなでカタチに。



これからソーラーシェアリングを設置する方に向け、太陽光パネル下で栽培された作物を、脱炭素社会に寄与するブランドとして成立させていくためのマッチングを行うサービスです。再生可能エネルギーを生み出す環境負荷に配慮した圃場という社会的価値を創出していくことで、高価格での農作物の販売をサポートします。

プロジェクト機能



ソーラーシェアリング付きの圃場で栽培された作物を活用して、新たな商品開発、ブランドの立ち上げのためのパートナーを見つけるための機能です。

アプローチ機能



気になるプロジェクトを見つけたら、アプローチ機能を使って相手にメッセージを送ることができます。

3

ノウハウシェア

百聞は一見にしかず。まずは知ることからはじめよう。



遮光下での作物栽培ノウハウについて、営農者からのリアルな情報提供を受けることができるサービスです。また、実地でのノウハウ共有にも取り組み、すでに運用されているソーラーシェアリング付きの圃場への見学をコーディネートします。

セミナー動画



ソーラーシェアリングについての基礎知識や、地域住民を巻き込んだ循環の仕組みなどの解説動画を配信しています。

見学できる圃場



SSFが提携する全国各地のソーラーシェアリング付きの圃場へご案内します。

5

発電マッチング

パートナーと一緒に、ソーラーシェアリングをはじめよう。



ソーラーシェアリングを設置するための圃場を提供してくれる農家の方と売電事業者の方がマッチングするためのサービスです。条件のいい圃場と環境意識の高い売電事業者さんを効率的につなぎ合わせ、ソーラーシェアリングの設置を加速させます。

マッチングする発電事業者を検索



農家の方は、場所や希望面積からマッチする発電事業者を検索することができます。

アプローチ機能



気になる農地や農家さんを見つけたら、アプローチ機能を使って相手にメッセージを送りましょう。



事務局長
椿茂雄氏

豊和村
つくり
協議会



代表
高坂勝氏

地域の人も移住者も子供もお年寄りも笑顔にしたい

ソーラーシェアリングの収益で 新しい村づくりをサポート



ソーラーシェアリング発電設備からの拠出金を、
地域の課題解決に役立てるために設立された「豊和村づくり協議会」。

これまで何を行い、これから何を成そうとしているのか——

代表の高坂勝氏と事務局長の椿茂雄氏が語ります。



◎豊和村づくり協議会
www.toyowa-village.org

発電設備からの拠出金で地域課題を解決

豊和村づくり協議会とは、どんな組織なのでしょう？

椿 ソーラーシェアリングが当たり前の風景になってきたここ
匠瑛市北部の一角は、かつて豊和村と呼ばれる地域でした。「豊
和村づくり協議会」は2017年、ソーラーシェアリングの収益を
地元へ還元し、地域や社会の課題を解決して“豊かで和やかな
新しい村づくり”を実現するために設立されました。

協議会は、豊和地域内の各区（住民組織）や環境保全会など
の公共的団体、小学校やPTA、保育園の保護者会、地元の農業
委員や社会福祉協議会員などの地域のために活動している団体
や個人等で構成されています。この地に設置されているソー
ラーシェアリング発電設備から拠出金を集めて「豊和村づくり
基金」とし、そのお金の活用方法を皆で協議して決めています。

具体的な活動内容についてお聞かせください。

椿 不法投棄地の整備や、小学校へのパソコン用モニターの
寄贈など、これまで様々な活動に取り組んできました。ホテル
を観る会や、道路に面した畑へのチューリップの植え付け
など、住民参加型のイベントもいろいろと行っています。

2019年秋の台風による長期停電の際には市民エネルギーちば
所有のソーラーシェアリング発電設備でスマホ等への無償充電
が行われましたが、これをさらに広げるために2020年9月、豊
和村づくり協議会は匠瑛市と「災害時におけるソーラーシェア

リング発電設備による電力供給に関する協定」を締結しました。

2019年の台風時は1ヵ所での電気の供給でしたが、当地区
に設備を設置している発電事業者の協力によって、ほぼすべ
てのソーラーシェアリングで供給できるようになりました。
豊和村づくり協議会の管理の下で、スマホやパソコンへの充
電の他、AC100vで消費電力が1500wまでのあらゆる電気器具
への電気供給が可能です。現地に炊飯器を持ってくれば、ご
飯を炊いて持ち帰ることもできます。

また、耕作放棄地の解消に向けた取り組みにも力を入れています。
2021年には、耕作放棄された畑の草刈り作業を、都会
の人たちにも呼びかけて行いました。環境保全会と協力しての
初めての試みでしたが、たくさんの都会の人たちや移住者の皆
さんも参加して、地元の人たちと一緒に汗を流してくれました。



地域住民と移住者の垣根を越えて

移住者の支援にも取り組んでいるのですか？

椿 この協議会は「豊和村づくり基金」の受け皿として誕生し
たわけですが、同時に私としては、この地に興味をもってくれ
た都会の人たちや移住してきた人たちとの交流を促し、一緒に
新しい村をつくっていくことが重要だと思っています。都会と
地域、移住者と地域の人たちとの間に断絶があっては、豊かで和
やかな村づくりはできませんからね。

そのために現在、新たな移住者に一時金を支給するとか、移
住者に家を貸してくれた人に謝礼を出すなど、協議会として移
住者をバックアップできるような仕組みをつくりました。就農や
就労などの情報発信も行っていく予定です。

移住者との関係を深めていくという意味では、「SOSA
Project」の高坂勝さんに、豊和村づくり協議会の新代表に就
いてもらったことも良かったと思っています。SOSA Projectは
都会の人たちに農業体験などを提供している環境NPO法人で
あり、地域との交流をずっとやってきて、すでに移住者のサポ
ートなども行っている団体だからです。

協議会の代表として思うことは？

高坂 豊和村づくり協議会の初代表は環境保全会の代表（当
時）だった方ですので、事務局の椿さんからお話をいただいた
ときには、移住組だった私が新しい代表で良いのかという思い
もありました。しかし、より深く地域に入っていける良い機会
をいただいたと考え、ありがたきお引き受けさせていただきました。

代表になって3年経ちますが、協議会の活動からは、たく
さんのことを学ばせてもらっています。自然エネルギーをベー
スとした地域自給の取り組みにコミットさせていただけるとい
うことは、私個人にとっても大きな喜びです。

私はずっと、食料やエネルギーや福祉を地域で自給できる社
会にしていかなければならないと考えてきました。地産地消と
地域分散型社会とか、いろいろな言われ方がありますが、豊
和村づくり協議会は、そういったところに貢献していけると信
じています。



次代を担う子供たちのために

これまでで印象に残っている取り組みは？

高坂 2021年に始めた取り組みの一つに、「夏休みこども教室」
がありました。夏休みにも、こどもたちを安心して預けてお
ける場を設け、家庭の負担を減らそうとする試みです。豊和
小学校には以前から、お父さんお母さんが仕事を終えて家に
帰ってくるまで、放課後も子供たちを学校で預かってくれる
「放課後こども教室」という制度がありました。しかし、夏休
みで学校が休みになると、それも休みになってしまうため、「夏
休みにも「こども教室」を開催してほしい」という声があ
がっていたといいます。

そうしたなか、今回の夏休みこども教室は“自分たちの手
で立ち上げよう”と動き始めたお母さんたちはじめ有志の力
で実現されました。豊和村づくり協議会は、これを資金面
で支え、日々の運営は指導員3人と15人のボランティアスタ
ッフが担いました。地域の高校生16人もボランティアで協
力してくれました。太陽光で動くソーラーカー工作や藍染め
体験、ピアノ・楽器演奏や和太鼓体験など、日ごろ学校では
できない体験を子供たちは存分に楽しんでいました。

私たちは、豊和村づくり協議会を、ただ単に金品を分配
する組織ではなく、地域の主体的な試みを後押しする存在
でありたいと願っています。夏休みこども教室は、地域のお
母さんたちの声に始まり、協議会がそれを支援するという流れ

できたという意味で、私たちにとっても大きな価値のある取
組みでした。

未来に向けて、やってみたいことは？

高坂 将来的には、移動困難や買い物困難になってしまった人
たちのため福祉など、地域の暮らしを守る公共サービスにも関
わっていきたくと思っています。ソーラーシェアリングでつく
った電気自動車や電気バイクを走らせ、病院や買い物に行く足
として使ってもらえるなど、具体的に何ができるかを考えて
いるところです。

子どもたちに、お年寄りに、農家になる人に、移住者に——住
まう人たちが笑顔になれる新しい村づくりに尽力してまいり
ます。



2021年12月5日に飯塚開畑環境保全会とともに、3回目となるチューリップの球根植えを実施。
球根の数は、前年より多い1万8000個程で、4月には色とりどりのたくさんのチューブが咲
き誇る様子も見ることはできるはず。

Company Name

株式会社 Re

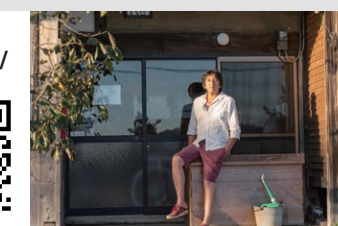
Re Life
Re Work
Re Society



COMPANY PROFILE

■会社名 株式会社Re
■設立 2018年10月24日
■代表取締役 高坂 勝

<https://sosaproject.net/>



古民家農泊をベースに“気づき”の機会を提供する 豊かさや便利さでは語れない、持続可能な未来のために

築300年以上の古民家に泊まって、忘れていた何かを取り戻す。

ワークショップで、知らなかった自分に出会う。

「Re」は訪れた人たちを、Re Life / Re Work / Re Society へと導きます。

代表取締役の高坂勝氏が語る、その真意とは？

不便な宿だからこそ感じられるものがある

■ Reとは、何をする、どんな会社なのですか？

「Re」では現在、古民家農泊という宿泊事業を中心に、親子で楽しむサツマイモ掘りなどの田舎体験イベントや各種ワークショップを行っています。まだ、誕生して3年の小さな会社ですが、市民エネルギーちばと連携しながら、市民エネルギーちばではできない多様な取り組みを進めているところです。

■ 古民家農泊について教えてください。

古民家農泊としてお泊りいただく宿は、もとは農家さんの家だった築300年以上の建物です。お客様にお泊りいただけるよう、およそ3年をかけてほぼDIYで手直し、まだ途中です。その古民家は、匝瑳市に隣接する多古町の、のどかな田園風景の中にあります。管理人居住型の一棟貸しですから、大勢での宿泊も可能です。これまで、のべ500人ほどのお客様にお泊りいただいています。

私たちは、ここを“不便な宿”と自認しています。なぜなら、持続可能な未来への“気づき”に貢献させていただきたいと考えているからです。例えば、キッチンの食器を使ったら、洗って元



大勢と一緒に泊まれる古民家ならではの開放的な室内。夏は心地よい風が吹きぬけ、冬は薪ストーブが体も心も暖めてくれる。

の場所にお戻しいたします。キッチンに洗剤はありません。備え付けのフキンに水やお湯だけで充分洗い落とせます。油污れは新聞紙や廃棄する紙などで拭いてから。洗剤は健康にも環境にも悪いものです。野菜料理が中心なら、油污れもほとんどないのでフキンだけでも充分に落とせるはずですよ。

街にはもはや消え失せた空が、陽射しが、田園が、空間が、時間が、関係が、ここには満ちています。田舎志向の人だけでなく、都会から離れられないビジネスパーソンにもお越しいただき、ここでの体験を新しい自分に出会うきっかけにさせていただければと願っています。

地域の人たちの交流の場、災害時には避難所に

■ 地域の人たちとの関係は？

この場所は、宿泊施設であるだけでなく、私たちににとっては地域の人たちとの交流の場にもなっています。さきも近所の方が野菜をもって遊びにきてくれました。都会の人が泊まりにくるとともに、地域の人も気軽に立ち寄ってくれる…そんな、皆にとってのサードスペースでありたいと思っています。また、災害時には地域の避難場所的な役割も担えていけたらと考えています。

近い将来、この古民家に太陽光パネルと蓄電池を設置して、地域一帯が停電しても拠り所にしていただけるよう完全オフグリッドを実現します。また、電気自動車を充電できるようにして、災害時には地域の人たちに開放させていただきます。

■ ワークショップについて教えてください。

サツマイモ掘り親子体験は、行政から委託を受けて行ったものですが、ただサツマイモを掘るだけでなく、サツマイモ畑を整備して苗を植えるところにも参加者を募りました。地域の人にもご協力を仰ぎながら、農作業に親しむ機会をご提供させていただきました。

市民エネルギーちばの使用済み太陽光パネルを譲り受けて、地域の人や移住してきた人たちの家に、そのパネルを設置してもらったワークショップも開催しました。使用済みパネルといっても新品の7掛け程度の発電量はありますから、十分に魅力的です。昨年は約3000円ほどの参加費をとって2回開催したのですが、コロナ禍にも関わらず約60人ほどが集まってくれました。

先日は、古民家の庭土木作業などのワークショップを開催しました。数日経って届いた参加者のご感想を、一部紹介させていただきます。「上手くはできなくても、やってみるって大事だと感じました。自分でもできるんだなと思えたので」「参加した目的が、次の人生を歩むきっかけが欲しくてだったのですが、想像以上の体験ができ、すごく満足しています」「私の中の鉄壁が崩れ始めました。初めてお会いした参加者ともいきなり深いお話が出来ました。たった2日間とは思えない濃厚な時間でした。なんだかすごかったです！」

グローバル化の先の向こうのローカル化へ

■ 社名の由来、そこに込めた想いとは？

「Re」とは、ラテン語から来た接頭辞です。単語の頭にくっつ

き、「再び」「新たに」という意味あいを加え、言葉を先導します。3RのReduce(減らし) Reuse(繰り返し使い) Recycle(再生利用する)は、もはや一般語ですね。私たちの社名も、この「Re」からきています。

経済成長の幻想を追い求めるシステムは行き詰まってもなお未だ長く信じられ、未来への答えがわからぬまま、次から次に問題が深まるばかりです。なぜなら、経済成長の幻想こそが問題の原因だからです。次の時代に経済成長など必要なく、すでに始まっている人口減少は必然です。

それは絶望でしょうか？いえ、希望です。あなたと私の手・足・頭を動かせば、課題を認識し(Recognize)、見直し(Review)、再び仲間になり(Rejoin)、回復し(Recover)、作り変え(Remake)、生まれ変わる(Reborn)、小さな革命(Renovation)をたぐり寄せて、グローバル化の先の向こうのローカル化へ進むことができるでしょう。

株式会社Reは、食と農を「Re Food」へ、電気や熱を「Re Energy」へ、楽しさを「Re Culture」へ、地域を「Re Community」へ、あなたと一緒に歩みたいと考えています。暮らしを、遊びを、働くを、その先の世の中を、希望を据えた未来に向けて、Re Life / Re Work / Re Society へと導きましょう。



広大な田んぼに囲まれた集落の端っこにある、飾り気のない築300年の建物。いにしへの農村の暮らしに想いを馳せるのもいい。